

7. 「BLASTAM メッシュー岡山版」の判定結果に基づく本田粒剤処理によるいもち病防除（情報）			
[要約] 「BLASTAM メッシュー岡山版」による葉いもち感染好適条件出現日の1週間後にメトキシアクリレート系薬剤（粒剤）を散布すると効果が高い。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0543

[背景・ねらい]

岡山農試で開発したイネいもち病の感染好適条件を 1km メッシュで表示することができるシステム「BLASTAM メッシュー岡山版」の判定結果に基づいた本田でのメトキシアクリレート系薬剤（粒剤）の散布適期を明らかにし、防除の効率化を図る。

[成果の概要・特徴]

箱施用薬剤無処理の圃場で、「BLASTAM メッシュー岡山版」による感染好適条件出現時とその1週間後および2週間後に、メトキシアクリレート系のメトミノストロビン（オリブライト）粒剤やオリサストロビン（嵐）粒剤を処理し、その効果を箱施用薬剤（Dr. オリゼ、ビーム粒剤）またはフェリムゾン・フサライド（ブラシン）粉剤と比較した。

1. 中発生条件では、1週間後処理が最も効果が高く、ついで感染好適条件出現時処理で効果があった。また、1週間後処理のメトミノストロビン粒剤とフェリムゾン・フサライド粉剤との防除効果を比較すると、前者の方が効果が高かった（図1）。
2. 多発生条件では、オリサストロビン粒剤の1週間後処理と2週間後処理は同時期のフェリムゾン・フサライド粉剤散布よりも高い効果があり（図2）、穂いもちに対しても防除効果が認められた（表1）。

以上の結果、「BLASTAM メッシュー岡山版」による葉いもち感染好適条件出現日の1週間後（葉いもち初発時）にメトキシアクリレート系薬剤（粒剤）を散布すると効果が高い。

[成果の活用面・留意点]

1. オリサストロビン粒剤は農薬登録後に使用する。
2. 「BLASTAM メッシュー岡山版」の判定結果は岡山県農業総合センターホームページ内用サイトを閲覧する。

〔具体的データ〕

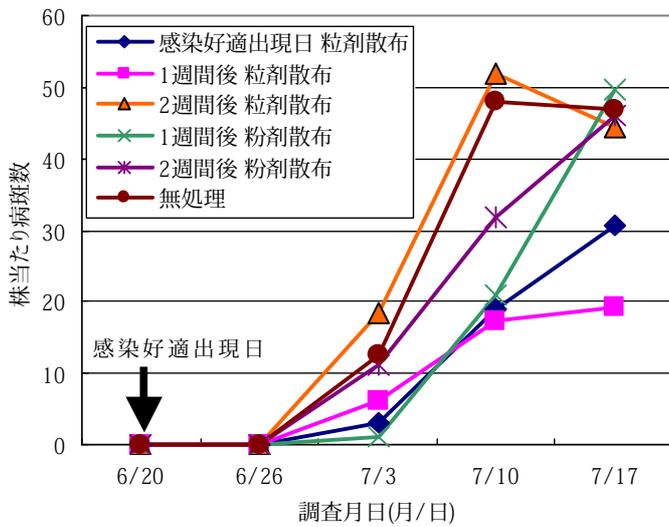


図1 メトミノストロビン粒剤, フェリムゾン・フサライド粉剤の処理時期が葉いもちの発病に及ぼす影響 (平成15年, 御津町, コシヒカリ)

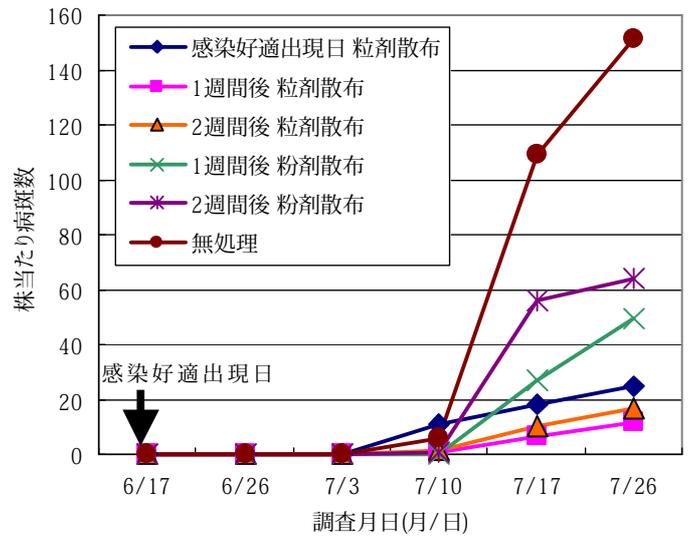


図2 オリサストロビン粒剤, フェリムゾン・フサライド粉剤の処理時期が葉いもちの発病に及ぼす影響 (平成15年, 山陽町, 関東90号)

表1 いもち病に対する薬剤の処理時期別防除効果 (平成15年, 山陽町)

箱施用剤	オリサストロビン粒剤処理 (処理月日)	フェリムゾン・ フサライド粉剤 処理 (処理月日)	葉いもち (7月26日調査)		穂いもち (9月17日調査)		防除価
			発病株率 (%)	株当たり病 斑数	発病穂 率 (%)	発病度	
無処理	感染好適条件出現時 (6/17)		95	24.7	52.7	43.6	45
	1週間後処理(6/26)	無処理	50	11.3	30.5	19.6	75
	2週間後処理(7/3)	無処理	83	17.0	26.8	19.1	76
無処理	無処理	1週間後処理 (6/26)	100	49.2	61.8	47.8	39
		2週間後処理 (7/3)	85	63.7	70.2	58.0	27
無処理	無処理	無処理	100	151.6	87.7	79.4	-

品種：関東90号, 移植日：5月23日

〔その他〕

試験研究課題・事業名：イネいもち病の省力的予察手法の確立及び広域実証

予算区分：国補（発生予察効率化推進事業）

研究期間：平成12～15年度

関連情報等：平成10年度試験研究主要成果「BLASTAMメッシュー岡山版」

(1kmメッシュで表示)を用いた葉いもちの発生予察」

平成12年度試験研究主要成果「イネ箱施用薬剤の葉いもちに対する残効比較」